

東北・関東大震災に際会して

理事長 杉溪 一言

会員の皆様。この度の未曾有の大震災に何らかの被害を受けられた方も少なからずいらっしゃることでしょう。ご家族の無事はいかがでしょうか。お伺い申し上げます。

連日の報道で津波の怖しさを眼のあたりにし、被災者の方々の万感の思いに胸が塞がります。不幸にして亡くなられた方々に心からご冥福をお祈りいたします。家も職場も家族をも一瞬にして喪うという悲惨な状況は、私たちの想像をはるかに越えています。私たちは、この現実にかかわったらよいのでしょうか。

新聞のコラムに米国の女性詩人の短詩が載っていました。

＜失意の胸へは／だれも踏み入ってはならない／自身が悩み苦しんだという／
よほどの特権を持たずしては——＞

カウンセリングを学ぶ者にとって、この詩は深い戒めとして心に響きます。

そして、悩み苦しむことの意味を自らに問いかける警鐘に聞こえます。しかし——、失意の胸に踏み入る愚は避けても、寄り添い、支えあう心は、この詩人にも通ずるの

ではないのでしょうか。私の胸にはフトこんな＜詩＞が浮かんできました。

＜失意の胸へは／だれも寄り添うことはできよう。／
互に支えあうという／人間の特権をだれもが持っているのだから——＞

災害はまことに理不尽で容赦なく、家も、町も、故郷もズタズタにしてしまいました。でも、人と人を繋ぐ心、とりわけ家族の絆は、災害にもめげず、そのさ中から雄叫びをあげているように見えます。家族の無事を抱きあって喜ぶ人たち。その一方で家族の姿を求めて瓦礫の中をさ迷う人びと。＜家族＞はまさに、マグニチュード9.0の巨大なエネルギーで“再生”したのではないのでしょうか。

この災害から私たちは何を学ぶのか？そこには反省、教訓、課題が山程あることでしょう。そしてその答案を書くには多くの時間が必要でしょう。しかし、私たちは今、歴史の重要な一コマを生きているのです。

この災害の意味するものは何か。＜家族＞というキーワードのもとに学びあっている私たちは、この機会をしっかりと見つめ、災害地の教訓を無にすることなく、日本の家族再生に向けてさらなる研鑽と実践に努めて参りたいと思います。

私自身も3・11、午後2時46分、震度5強の激しい揺れを体験しました。当日はやむなく外出先で仮泊しましたが、非日常の世界に身を置いて、いのちの大切さ、生きていることの有難さ、人と人との支えあう心強さを改めて痛感しました。

この体験を忘れずに、会員の皆様の経験と知恵と意欲を結集し、いま私たちに求められていること、私たちに出来ることを実現していきたいと念願しております。

燻りつづける余震の中で、私の思いを拙いままに綴りました。災害の恐怖、不安とともに、私たちの役割、使命を皆様と分かちあえればうれしく思います。会員各位の一層のご活躍をお祈り申し上げます。

会員の皆さまへ大震災支援活動にご協力をお願い

協会会員には、この度の震源域に住まわれている方が大勢いらっしゃいます。被災されて厳しい毎日をお過ごしの方もおいでなのではないでしょうか。会員を含め被災された方々へ協会として何かできないかと考えて、下記の活動をすることにいたしました。ささやかな支援ですが、日本家族カウンセリング協会のメンバーとしてのお気持ちを表して頂ければ幸いです。被災会員の方々は勇気を出して生きていただきたいと切に願っております。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

- 活動の名称：NPO法人日本家族カウンセリング協会東北・関東大震災支援活動
- 活動内容：義援金の募集（一口 1千円）
- 方法：年会費振込用紙（同封）にて義援金の欄に口数と金額を記入して送金してください。
- お預かりした義援金は、日本赤十字社『東北関東大震災の義援金』を通して被災地に届けます。
－この活動についてのお問い合わせは協会事務局にお願いします－

尚、税金控除証明が必要な方は 日本赤十字社等へ直接お振込みください。